

問 「湯の駅おおゆ」の収益は

答 平成30年度の収入額は1億1千万円で目標を上回ったが、機能向上のための設備工事等により、収支は計画を下回った。令和元年度の収入額は約1億円で目標値を下回ったが、新型コロナウイルスの影響と分析している。

新型コロナウイルス感染防止策について

問 新型コロナウイルス感染症について、

第2波、3波に備える必要があるが、本市の対策について伺う。

答

鹿角地域で感染症が確認された場合に備え、仮設診療所を設置しPCR検査を実施する体制を整えている。今後、他の地域で再び感染が拡大した場合は、必要に応じて県外への移動やイベントなどの自粛要請、施設の使用制限等の必要な措置を講じ、感染防止策に取り組んでいく。

事業者への支援について

問 新型コロナウイルス感染症により影響を受けた市内事業者に対して、さらなる支

援ができないか伺う。

答

需要回復に主眼を置いた支援策として、過去最大規模のプレミアム付き商品券などの発行を検討している。

「湯の駅おおゆ」について

問

芝刈り作業・ビオトープなどの管理は適切に行われているのか伺う。

答

指定管理者のスタッフが専門業者の指導を受けながら適切に管理しており、その状況については定期的に確認している。ビオトープについては、管理は複雑であるが、自然を生かした環境が保たれている。



録画配信はこちらから

質問した項目

- 新型コロナウイルス感染症について
- 「湯の駅おおゆ」について
- 株式会社恋する鹿角カンパニーに委託している業務について

戸田 芳孝 議員
(無会派)



教育民生常任委員会

(鹿角市社会福祉協議会)

6月10日、鹿角市社会福祉協議会を訪問し、地域福祉活動の拠点施設としての効果や課題などについて調査しました。

社会福祉協議会は、今年5月1日に開所式を行い、新たな拠点で業務を開始しているところですが、福祉行政と連携が取りやすい場所として、福祉保健センターの向かいに建設されています。

今年度実施する大きな事業としては、全世代型包括相談支援体制の構築があり、人口減少や少子高齢化が進み単身世帯や高齢者のみの世帯が増加する中、8050問題などの複合化した福祉課題に対応するため、地域福祉拠点施設として社協が中心となり、関係する福祉機関ごとに役割を決め、その世帯が抱える課題の解決に向けた支援を行っていくという構想を確認することができました。

(派遣委員)

館花一仁 金澤大輔 黒澤一夫
宮野和秀 田口 裕 成田哲男

産業建設常任委員会

(鹿角観光ふるさと館)

6月10日、今年度までの2カ年で大規模改修工事が進められてい

る鹿角観光ふるさと館について調査しました。

建設から30年以上が経過し、設備の老朽化や個人客の増加などによる観光客ニーズにそぐわない面も生じていたため、課題を整理し、市が目指す「稼げる観光」の中核施設として、観光産業の中心的存在となるような改修が進められています。



新しいレストランのカウンター前
(施設の説明を受けている様子)

今秋以降、軽食コーナーのエリア拡張や、農産物の販売・加工を行うマルシェスペースを刷新するなど、施設全体で収益が生まれるよう計画されているとのことであり、来春のリニューアルオープンに合わせてソフト面も充実させ、鹿角観光の活性化につながるよう期待するものであります。

(派遣委員)

栗山尚記 田中孝一 吉村アイ
浅石昌敏 中山一男 戸田芳孝